

保護者の皆さまへ

吹田市立千里新田小学校
校長 有明 志郎

平成29年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

報告の中の矢印は全国平均との関係を表している。

全国の正答率を上回る	↑
全国の正答率をやや上回る	↗
全国の正答率とほぼ同じ	→
全国の正答率をやや下回る	↘
全国の正答率を下回る	↓

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

◎ 国語 A 『主として知識』

ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◎ 国語 B 『主として活用』

全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

●国語《各領域における成果と課題、指導のポイント》

話すこと・聞くこと

A ↗ B ↑

知識：ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

書くこと

A ↑ B ↑

知識：ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

読むこと

A ↑ B ↑

知識：ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

言語事項

↑A

知識：ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

☆指導改善のポイント

- ・日常生活になじみのあるものであれば力を発揮することができるので、俳句や手紙の書き方などなじみのないものにも触れる機会を持てるようにする。
- ・文脈に即した漢字を使えるように漢字の意味を理解させる指導や、漢字に興味をもって日常の作文日記などで活用できるよう取り組む。
- ・話し合い活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。
- ・目的や意図に応じて、条件に合わせて自分の考えを短くまとめ、整理する。

●算数（概要）

◎ 算数A『主として知識』

ほぼ全ての項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◎ 算数B『主として活用』

全て全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

●算数（各領域における成果と課題、指導改善のポイント）

数と計算

A ↗ B ↑

知識：ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であったが、商を分数で表す分野において、無答率が高かった。

量と測定

A ↑ B ↑

知識：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

図形

A ↑ B →

知識：全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であったが、複数の分野にわたる課題を比較し、思考を表現することに課題が見られた。

数量関係

A ↑ B ↑

知識：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

☆指導改善のポイント

- ・複数分野にわたった課題が出たときに、一つ一つ整理しながら解決し、自分の考えを記述することができるよう学習に取り組む。
- ・数と計算においては、式の中の数値における意味や関係性について、確実に理解させるようにする。
- ・自分の解き方や考えなどを順序立てて、分かりやすく書き、説明する活動を進めている。さらに、その際用いた根拠となる定義や定理なども落とさず明記させていくようにする

2. 生活習慣や学校環境等に関する調査結果の分析

●全体の概要

◎家庭生活

「朝食を毎日食べている」や「起床時刻が決まっている」については肯定的な回答が多く、基本的な生活習慣については、ほとんどが肯定的な回答であった。

「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている」「地域の行事に参加する」は、全国平均を下回っている。

◎家庭学習

家庭学習は、「計画を立てて学習している」全国平均を上回っているが、平日・休日とも「家庭学習している」割合は全国平均を少し下回っている。「宿題をする」は、全国平均を上回っているが、「予習・復習をしている」は、全国平均を下回っている。

◎自己肯定感

すべての項目において肯定的な回答が多く、全国平均とほぼ同じである。

◎学校生活

「学校は楽しい」「友だちに会うのは楽しい」に対する回答は、肯定的なものが9割以上で全国平均を上回っている。「学校のきまりをまもっている」は9割以上で全国平均を上回っている。また、ほぼ全員が「いじめはいけない」と回答しており、全国平均とほぼ同じである。

◎授業

国語、算数とも「授業の内容はわかる」8割5分「授業は大切である」約9割と肯定的な回答をしている。ただ、「算数の勉強がすき」と回答した児童が7割5分で全国平均を上回っているのに対して、「国語の勉強がすき」と回答した児童は5割5分と全国平均を下回っている。

●各領域の詳細

家庭生活

約9割の児童が、決まった時間に起床している。また、9割以上の児童が、朝食を毎日食べている。決まった時刻に就寝している児童は約8割5分である。

コンピューターゲームを2時間以上している児童は3割いるが、全国平均を下回っている。携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットをしている時間が2時間以上の児童は、約1割5分で、30分以下の児童は約5割であった。

「家族と学校のことを話している」児童は8割5分で全国平均を上回っている。地域の出来事に関心がある児童は約6割いるが、地域の行事に参加している児童は約5割で全国平均に比べて少ない。

家庭学習

30分以上家庭学習をしている児童は約9割で全国平均とほぼ同じである。学習塾で勉強している児童は5割5分、宿題をしている児童は約9割で全国平均を上回っている。「計画を立てて勉強をしている」約6割で全国平均をやや上回っているが、「予習をしている」3割、「復習をしている」が3割5分と肯定的な回答をしているが、全国平均を下回っている。

1日あたりの読書時間については「10分以上」が5割、「月に1～3回以上図書館へ行く」児童については約3割で全国平均を下回っている。週に1、2回新聞を読んでいる児童は約3割であるが、一方、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」という質問には8割以上がよく見る・時々見ると回答していて、全国平均とほぼ同じである。

自己肯定

「ものごとをやり遂げて、うれしかったことがある」「人の役に立つ人間になりたい」9割5分、「将来の夢や目標をもっている」約8割5分、「難しいことに挑戦する」7割5分で、全国平均とほぼ同じである。「自分には、よいところがあると思う」約8割、「発表がとくいである」約6割で、全国平均を上回っている。

学校生活

「学級のみんなで協力してやり遂げてうれしかったことがある」約9割「先生はわかるまで教えてくれる」8割5分で全国平均を上回っている。

しかし、「自分とは異なる意見のよさを生かして、折り合いをつけて意見をまとめる」約4割、「先生は良いところを認めてくれる」7割5分で全国平均を下回っている。

授業

授業全体について「めあてやねらいが示されている」「目標やまとめを書く」については9割5分、「振り返る活動をしている」「友だちの考えを聞いて、自分の考えを伝える」8割、「自分の考えが伝わるように工夫して発表している」約7割「自分の考えを説明したり書いたりするのは難しいとは思わない」5割5分の児童が肯定的な回答をしており、全国平均を上回っている。しかし、「自分で課題を立て、情報を集め整理して調べたことを発表する」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」共に6割5分で全国平均を下回っている。

国語の授業では、「授業の内容はわかる」8割5分で全国平均を上回っている。「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする」7割で全国平均とほぼ同じである。しかし、「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」5割5分「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」は6割5分で、全国平均を下回っている。

算数の授業では、「考えがわかるようにノートに書いている」約9割「授業の内容はわかる」「簡単な解き方を考える」「公式などのわけを理解しようとしている」「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」8割5分と肯定的な回答が多く、全国平均を上回っている。「新しい問題に出合ったとき、解いてみたい」7割5分で全国平均とほぼ同じである。

☆今後の指導について

授業では、「めあて・課題の確認→自分の考えを書く→意見を交流する→わかったことや考えをまとめる」という授業の流れとともに、自分の考えをすすんで工夫して発表しようとする様子も定着しつつある。今後は、自分で課題を見つけて調べて発表する活動をする機会をさらに増やすとともに、話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたり、自分の立場や理由、根拠を明確にして発表することなどを指導していく。

今回の調査は、子どもたちの学力のほんの一面です。千里新田小学校で身につけてほしい様々な学力は、日々の授業、各種行事、毎日の掃除や係活動、スポーツや音楽、それを通しての仲間との学びあいの中で、ゆっくりと醸造されていくものと考えております。

ご家庭でも、人間としての成長を認めていただき、基本的な生活習慣、家族としての役割分担、そして家庭学習も含めた自己管理を発達年齢に合わせて教えてあげてほしいと願っております。学校と家庭、そして地域の中ですくすく育つ「千新っ子」をこれからも応援してください。

千里新田小学校 校長 有明志郎